

「大友氏遺跡史跡指定20周年記念シンポジウム

－歴史とつながる 未来につなぐ－

パネルディスカッション「未来につなげよう大友氏遺跡」

コーディネーター：小野正敏 氏

パネリスト：

- ・鶴田巧氏（大分市中央地区自治会委員連絡協議会）
- ・佐藤弘俊氏（NPO 法人大友氏顕彰会）
- ・佐野真紀子氏（株式会社日本政策投資銀行 大分事務所）
- ・佐々木健策氏（神奈川県小田原市文化財課）
- ・坪根伸也（大分市教育委員会文化財課）

〇わたしが考える大友氏遺跡の魅力と遺跡の「活用」アイデア提案

コーディネーター小野正敏氏から、佐野真紀子氏・佐藤弘俊氏・鶴田巧氏に対して、それぞれの立場から、①大友氏遺跡の魅力、その魅力を生かしたこれからの②大友氏館の活用について議論。

①大友氏遺跡の魅力

（佐野真紀子氏）①大友氏遺跡が街中から非常に近いところにある点、②大友氏（大友宗麟）の独特の個性に魅力がある。こんな立派な遺跡があるのなら、外に伝えていきたい。その手段はやはり観光。

今は、直接的な体験型が主流になっている。東大寺の現代アートの展覧会や、国東市文殊仙寺の「dining out」のように直接的なことではなく、全く違う角度からこの場所を活用することも面白い

（佐藤弘俊氏）戦国の豊後、大分で大友氏の治世の時に世界が1本で繋がった。その時に交流し、昇華された文化が、大分で発祥した。これが、私が考える大分の魅力。これを出していかないといけない。

②大友館の活用

（佐野真紀子氏）当時の儀式、年中行事の再現も、実際に直接的に体験できるものとさらにいい。違うジャンルからのアプローチで、これまで関心がなかった人々もこの場所を訪れ、思わず大友氏の歴史に触れることで、新たなファンが獲得できるのかもしれない。

(佐藤弘俊氏) 大分発祥の唯一無二の南蛮文化を総合的に展示するミュージアム、博物館を大友館のどこかに建てたい、そういうのを作ってもらいたい。

(鶴田巧氏) まずは地元の者に知ってもらうことを心がけている。遺跡の保存、広報は大事だが、遺跡のままでは来られる方が限られる。これから先の子供とみんなが楽しむものがないと来てくれる方が限られる。

地元としては、南蛮食堂とかロザリオの販売、グランドゴルフ場をつくり老人会を誘致するなどを考えている。

(コーディネーター：小野正敏氏) 佐藤さんと佐野さんの話は割と共通するテーマだと思う。何を観光資源とするかと言った時に、佐野さんは、ハード的な在り方、財産のこれが使え。佐藤さんは文化の側面、ソフトの面でもユニーク、これが財産。互いの話を聞いて他にこんな使い方があるというのはないか。

(佐野真紀子氏) 大友氏遺跡の魅力、大友氏の独特の個性は、佐藤さんと同じ。観光資源としての使い方は、歴史の視点からだけでなく、ちょっと違った視点でアプローチしてみるって言うのも面白い。

(佐藤弘俊氏) 体験型につなげてもらいたい。ハード・ソフトの合わせ技で相乗効果抜群だと思う。にぎわいの場というところがテーマになってくる。

(コーディネーター：小野正敏氏) 鶴田さんの地元の人、子どもを引きつけるものを用意されてもいいのではないかとこの視点が大事だと思った。佐野さんや、佐藤さんは大人向けや歴史好き、文化好きが飛びつきそうなイメージだが、この辺についての意見は？

③ 地元の人、地域の人について

(佐藤弘俊氏) 子どもがああ時に体験した、あそこで遊んだ記憶。また大分に帰ってきたいと思えるようなものにしたい。

教育が絶対大事。子どもたちが学校で発表するとかで、体験型とかソフトの面を伝えてもらって、どんどん大友館に子ども中心に来てもらうのが一番大事。

○ 多くの市民に愛着のある場所「わたしたちの大友氏遺跡」にするためには

(コーディネーター：小野正敏氏) 歴史が好きなのが「ここは面白い、なんとかしなきゃ」では輪が広がらない。特別な場を設けるのではなく、普通に暮らしている中で、歴史を感じる遺跡の息吹を感じる、ここからも一つを踏み込んでいくイメージが作れて行くと一番いい。そういった形で、多くの市民に愛着のある場所に育てていくアイデアや考え方はないか。

(佐野真紀子氏) 歴史好きではない、多くの人を巻き込むのが重要。大友氏遺跡にも来てもらうためには、地域のコミュニティの場所、オアシス的な場所が市民の方が自ら何か企画できる場所、それを許容できる場所であってもいい。第一段階として創造性の発揮の場所、直接的な体験といった色々な使われ方ができるといい。

- ① **内側からのアプローチ**大友氏遺跡が自分の場所になると、気がつけば大友氏のその歴史にも触れられる。もっと知りたい、もっと外の人にも知られたいという欲が出てくるのでは。愛着の醸成につながる
- ② **外側からのアプローチ (外の目を通じて知る大友氏の魅力)** 大友氏遺跡に限らず、大分は豊かな土地と言われるが、身近な生活の中に忘れられているそれを全国区のテレビで紹介されると嬉しくてつい見ってしまう。外の目を通じて、「忘れたけど、こんな素晴らしいものがあった」と気づかされる。もっと色々な方、県外の方にも大分の事を知ってもらいたい、来てもらいたいという欲が出てくる。「**全国でその大友氏を知ってもらおう仕掛け作り**」が愛着ある場所に育てる手段ではないか。

(佐々木健策氏) 小田原城址の遺跡に愛着を持ってもらうために以下の取組を行った

- 1、 小田原城址の遺跡現地説明会を毎月行ったことで、最初は 200~300 人だったお客さんが 1000 人来るようになったので、繰り返してイベントを行うことが大事。
- 2、 小田原城天守閣では、夜に天守閣の中の証明を暗くしてお客さんを案内した。普段とは違うシチュエーションで見せるとまた興味も膨らむ。
- 3、 講演会を土日ではなく平日の夜に行うと土日とは全く客層が違う新しいファン層を獲得する面白いイベントだった。
- 4、 落語家の春風亭昇太さんと呼んで、小田原について喋ってもらうイベントも行い新しいファン層の獲得を目指した。
- 5、 漫画家と呼んで、漫画家がみる北条早雲と歴史家がみる北条早雲の対談イベント
- 6、 川崎競馬場でも小田原の情報発信。
- 7、 日々情報発信をすることでNHKのプラタモリに。14.7%の高視聴率を獲得し、その後の天守閣のオープンに 1 日 9900 人お客さんが来場した。テレビに協力するのも普及活動には大事。

(鶴田巧氏) 大友宗麟は蹴鞠が趣味とか聞いている。蹴鞠とは言わないが、サッカーとかバスケとかの大会 (宗麟の名を冠した「ソウリンピック」) を催したらどうか。

(佐藤弘俊氏) 大友氏遺跡の整備のため、立ち退かれた人たちの思いを忘れてはいけない。ずっと住んできて立ち退いた方々が、立ち退いてよかったと思えるような賑わいのある街、場所にするために長期的な長い目で見ないといけない。イメージは、参道とか寺町。いつも模擬店が出てくるような賑わいのある街。宗麟公まつりで出店を出して、南蛮文化にちなん

だ食材を出していくということが少しずつ始まっている。市長がリーダーシップをとり、県のツーリズム担当課と連携を組み、県と市で一大テーマパークみたいな形にして模擬店がいつも毎日出ているような所を目指したい。民間にもイベントを行ってもらい大友館を育ててほしい。